

式 辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、鴨川のほとりを吹き渡る風にも春の息吹が感じられる中、名残の雪景色となりました本日、京都府立鴨沂高等学校第68回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、多数の御来賓並びに保護者の皆様の御臨席を賜りましたことは、生徒及び本校職員一同にとり、この上ない慶びとするところであります。高段からではございますが、心からお礼申し上げます。

ただいま、147名の生徒の皆さんに、高等学校の全ての課程を修了した証として、栄えある卒業証書を授与いたしました。皆さん、卒業おめでとう。保護者の皆様におかれましては、たくましく成長されたお子様の姿に感慨もひとしおのことと拝察いたします。今日に至るまでの並々ならぬ御労苦に敬意を表しますとともに、改めてお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、私が本校に着任したのは、真新しい制服を身に纏った皆さんが、高校生活への期待に胸を膨らませて荒神口の九条家ゆかりの校門をくぐって入学した時と同じ3年前でした。あの頃、私はこんな生徒の言葉を耳にしました。「どうせ鴨沂やし」と。また、ある生徒は言いました。「他人を誹謗中傷さえしなければ、何をやっても良いのが鴨沂の自由だ」と。そんな言葉を聞くにつけ、鴨沂の生徒は自分の学校に誇りを持っていないのだろうか、真の自由の意味を分かっていないのだろうか、不安になりました。

皆さんが入学する前の本校は、定員割れが続き、様々な教育課題を抱えていました。課題解決のための学校改革と、京都府の教育改革が重なり、総合選抜・類型制による最後の生徒として、また制服導入や校舎改築をはじめとする学校改革のスタートを飾る生徒として、皆さんは本校に入学しました。様々な新しい学校の取組に戸惑い、不安や不満を感じたことと思います。中には、鴨沂で楽な高校生活を楽しまうと思って入ったのに、こんなはずじゃなかった、と感じた人もいたかもしれません。

しかし、この間の学校改革は、鴨沂の伝統復活を期して進めてきたことであり、皆さんが本校を巣立つ今だからこそ、その意味を伝えておきたいと思います。

私は、機会あるごとに、いつまでも変わることのない不易なる鴨沂の精神を継承するとともに、鴨沂の新しい時代を切り拓いてほしいと、皆さんに語ってきました。

不易なる鴨沂の精神とは何か。今も校長室に、明治5年に創設された本校の前身である新英学校及女紅場の「女紅場規則」があります。そこには、明治維新の文明開化・殖産興業の機運が高まる中で「国益を興さんことを希望し」て規則を設けるのだ、と書かれています。また、現在の本校の教育目標は、戦後の学制改革により、昭和23年の学校創設と同時に定められたものを変えることなく引き継いでいます。そこには、「世界平和を希求し、すべての人々が幸福になりうる社会をめざして、事実に基づいて真理を追究し、それに従って実践しようとする努力する人間をつくる。」と定められています。

本校は、明治維新と先の大戦後という二度にわたる我が国の大きな転換期に、国家の繁栄や世界の平和・幸福に貢献する人間を育成する学校として創設されたものであり、

真理追究・実践・努力を人間形成の柱としているのです。ネット上に氾濫する不確かな情報や誰かの言うことを鵜呑みにするのではなく、何が本当かを自ら見極め、主体的に行動し、挑戦し続ける人間の育成を目指すものであり、決して薄っぺらな個人主義を標榜する学校ではないのです。

私は、皆さんが入学したとき、式辞の中で問いかけました。将来の目標や夢、何事にもチャレンジする強い心、個性を磨くこと、そして、世のため人のために力を尽くすという覚悟があるか、と。これは、まさに鴨沂スピリットを意識して投げかけたものなのです。入学式でのことですから、誰も覚えていないかも知れませんが、3年間の高校生活の中で身に付けて欲しい鴨沂ならではの到達目標を心に刻んで欲しかったのです。

この間の学校の変革により、大きな不安や不満を感じさせたことは申し訳なく思います。しかしながら、皆さんは、新しい様々な取組を通して着実に成長しました。学力を伸ばし、部活動に励む生徒や学校行事・地域行事に積極的に協力する生徒が増えました。一方で、問題行動や中途退学など、本校の課題であったものは着実に解決されていきました。特に、最上級生となったこの1年で、自立に向けて急速に成長したように感じます。その結果、地域や中学校など、多くの人々から「鴨沂は変わった。」「鴨沂は良くなった。」と声をかけていただくようになりました。学校の信頼を取り戻し、本校入学希望者も増えています。これらの本校の変化は、皆さんの頑張りの成果です。

例えば、挨拶ができる、自分ではない誰かのために行動する、こうした行為を当たり前のこととして高校段階までに身に付けた人は、社会に出た瞬間に周囲から高く評価されるものです。今の鴨沂は、そういうことが当たり前でできる学校になっていると思います。

鴨沂高校を巣立っていく皆さんには、我が国有数の歴史と伝統を誇る不易なる鴨沂の精神を受け継ぐ者として自信と誇りを持ち、これから出くわすであろう様々な課題や試練に果敢にチャレンジし、たくましく生き抜いてほしいと思います。そして、世のため人のために力を尽くせる人間になってください。皆さんの未来に幸多かれと祈ります。

結びに、本日御臨席を賜りました御来賓の皆様、並びに保護者の皆様には重ねて感謝を申し上げます。本校に対しまして、今後なお一層の御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の御健勝と卒業生の皆さんの洋々たる前途を祝し、式辞といたします。

平成28年3月1日

京都府立鴨沂高等学校
校長 藤井 直